

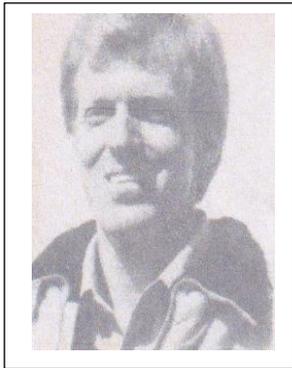
世界一周徒歩旅行 スティヴン・ニューマン その1

5大陸、20カ国 24,000 km以上、単独旅行 ギネスブックにも収録

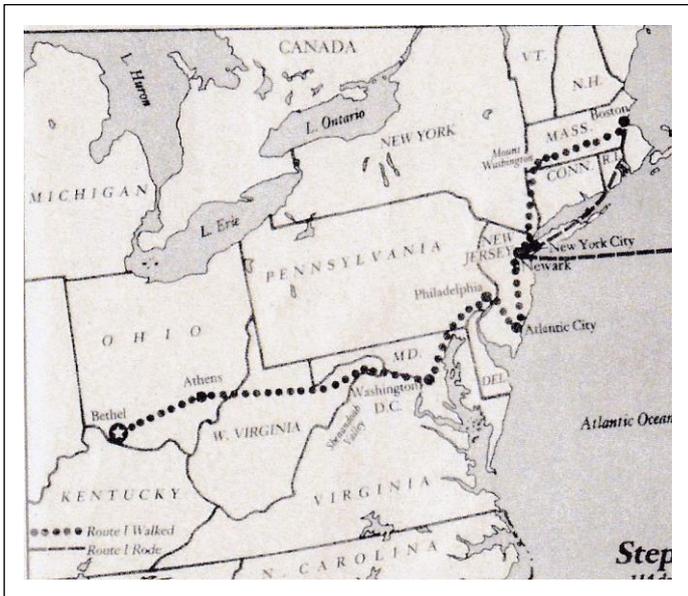
八柳 修之



1983年4月1日、28歳のアメリカ人ジャーナリスト、スティヴン・ニューマンは世界一周徒歩での世界一周旅行について。少年時代、雑誌「ナショナル・ジオグラフィック」を見て芽生えた、世界を見たい、という憧れを実現するためであった。旅を始めて4年後の1987年4月1日、彼は生まれ故郷のオハイオ州ベセルの我が家に生還した。旅の間に記事を送ったアメリカの地方紙の読者たち、思いやりを見せてくれた世界中の大勢の人たちとともにした旅だった。そういった人々とのふれあいを伝えたいのだが、全文532頁にも及ぶので、ここでは彼が歩いたルートを中心に要約してお伝えするが、英・仏・西先進国については、苦労話が無かったので割愛します。 **スタートはオハイオ州、彼の生家のベセルという小さな町である。**



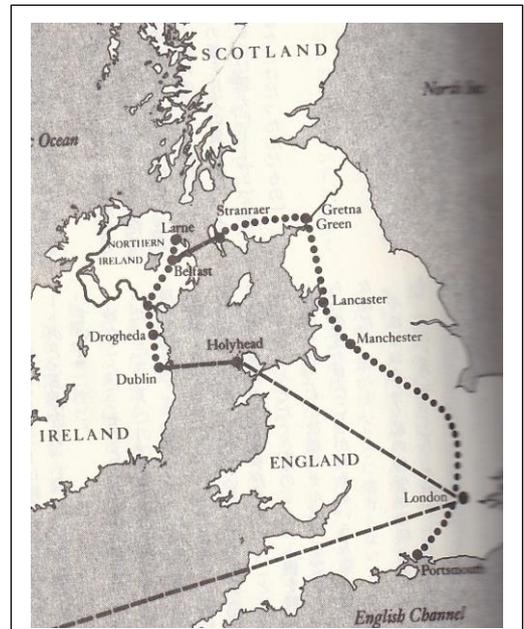
著者の略歴：身長185 cm。地元のハイスクールを卒業後、オハイオ大学でジャーナリズムを学び、ワイオミング州でウラン探鉱の仕事に従事。1977年、同州の「キャスパー・トリビューン」紙のレポーターとなり、1982年12月まで過ごし故郷のベセルに戻った。父親は病弱であったが世界旅行に理解を示し、出発に際し国際電話のクレジットカードをくれた。村長と警察署長の身元保証書・便宜供与依頼状を持参。母と兄姉、25人ばかりの村人に見送られて、1983年4月1日、念願の世界旅行に出発した。背中に寝袋とテントを背負い、30kgのバックパックを引いての出発だった。スポンサーなし、所持金については記載がない。



米国：1983年4月1日～1983年7月23日 114日
オハイオ州ベセル～ワシントンDC～フィラデルフィア～アトランティックシティ～ニューワーク～ニューヨーク～ボストン～ニューヨーク **1,787 km**

英国：1983年7月24日～1983年9月日 48日
ポーツマス～ロンドン～マンチェスター～ランカスター～クレンタグリーン～アイルランド・ベルファスト～タンドーク～ダブリン（首府）

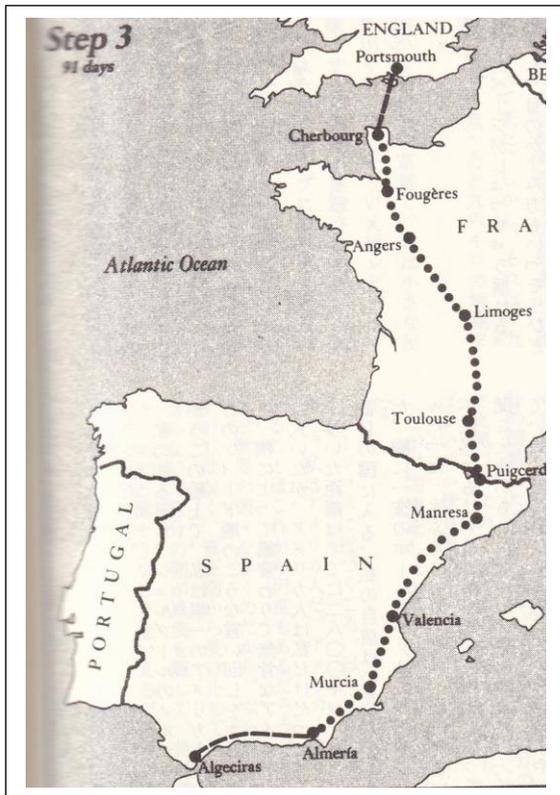
1,013 km 累計162日、2,890 km



マンチェスター224万人
北部イングランド代表都市。往時は綿工業で繁栄



ダブリン 人口117万人
アイルランドの首府
写真は国民議事堂



フランス・スペイン：1983年9月10日～1983年12月9日
70日 2,232 km 累計 232日、5,122 km

ポーツマス (英) ～シェルブール～フジェール～アンジェ～
リモージュ～トゥールーズ～国境～マンレザ～バレンシア
ムルシア～アルメリア～アルヘシーラス (ジブラルタル海峡)



ポーツマス (英) 9月6日
軍港がある町、
日露戦争講和条約締結地
明治38年(1905)



シェルブール
ポーツマスの対岸の港湾都市
シェルブールの雨傘で知られる。
仏独合作、全編音楽のみ。



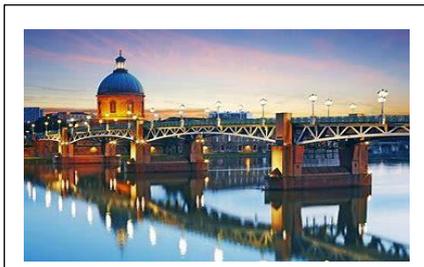
フジェール
中世の雰囲気が残る要塞がある。



アンジェ
西部メーヌ河畔に位置する。
中世の遺産、文化を感じさせる町



リモージュ
中部に位置する古都
磁器、リモージュで知られる。



トゥールーズ
ヨーロッパ最大の宇宙センターがある。バルセロナまでの64kmの都市



マンレザ



バレンシア
スペイン第3位の都市、港湾都市

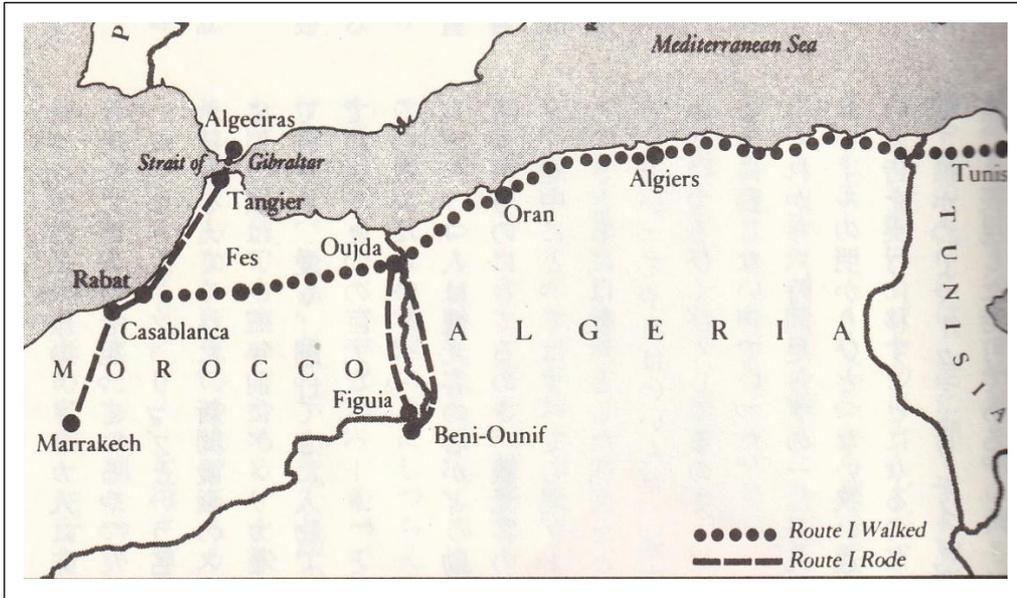


ムルシア



アルヘシーラス (ジブラルタル海峡を渡りタンジールまで65km)

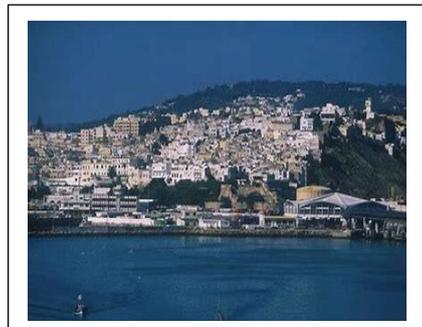
モロッコ・アルジェリア・チュニジア： 1983年12月10日～1994年3月9日 89日 1,932km
 累計：321日 7,054km



モロッコ
 タンジール～ラバト
 (首都)～カサブランカ
 ～フェズ～ウジダ

アルジェリア
 オラン～アルジェ(首都)

チュニジア
 チュニス



タンジール

ジブラルタル海峡に面し港町
 人口：95万人



ラバト

モロッコ王国の首都 人口180万人



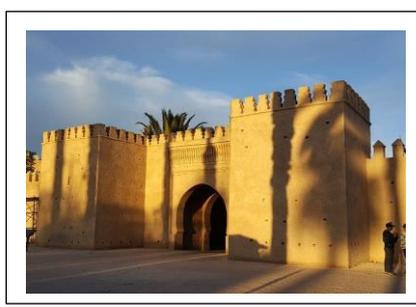
カサブランカ

モロッコ最大の都市：人口415万人
 商業・金融の中心地



フェズ

迷路都市 人口96万人(2004)



ウジダ

モロッコ東部の中心都市

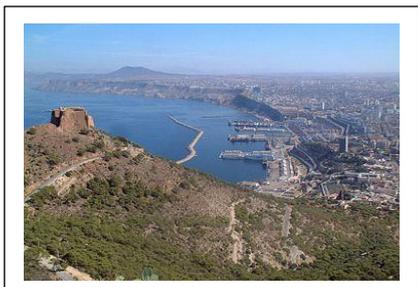


マラケシュ

ラバトの南西約280km。人口90万人

モロッコの貧困：ジブラルタル海峡を渡り、対岸のタンジール、入国審査で筆者とユダヤ人夫婦が厳しい取り調べを受け、ユダヤ人夫婦は強制送還となった。筆者はタンジールから奥地のマラケシュに住むアメリカ人医師からかねてより立ち寄ってくれと言われていたので、バスで向かった。停車するごとに厳しい臨検に遭った。マラケシュはタンジールから片道280km。長逗留しモロッコでの徒歩の出発点ラバト(首都)に戻ったのは1月2日、ここから苦難の旅であった。貧困、残虐、物乞い、かっぱらい、不潔な町を一つ、また一つ通過するたびに、人々は群がって来た。モロッコ人の大部分が極貧であることは否定のしようがなかった。だからと言って、

金を強要する権利はあるのか。 **アルジェリアの官憲**：1月20日、モロッコの北東部ウジダのアルジェリア領事館でウジダからアルジェリアに入ることにはできないと通告された。国境から僅か14km東だということに。ウジダから400km南下したサハラ砂漠の町フィギークに行く、そこから国境を越えてアルジュリアに入れということだった。たった14kmしか離れていないのに往復800kmも回り道する。・・・旅を連続するため仕方なく往復バスに乗った。こうしてアルジュリアに入国したのだが、検問所では持ち物だけでなく詰問、取り調を受けた。アルジュリア人はモロッコ人と違って物乞いや危害を加えることはしないが、どこへ行っても数百の目が、こちらをじっと見つめ不安を覚えた。 **チュニジア**は8日間で横断したが、前記2カ国に比べれば清潔で静かで、近代的ではあったが、アメリカに対しては極めて厳しい目の持ち主だった。「北アフリカでの三か月というもの、北アフリカと親密になろうと努力したが、ついにお互いを心から信頼し合えるようにはなれなかった」と筆者は述べている



オラン

アルジェリア第2の都市
人口68万人(2006)。
主要港の一つ、商業の中心地



アンジェ

アルジェリアの首都：人口335万人
(2010) 海岸付近はアフリカのパリ
と呼ばれる。



チュニス

チュニジアの首都、人口
歴史上、最も早くアフリカと呼ば
れる。

シチリアからイタリア本土へ 1984年3月10日～1984年6月3日 85日 1,680km

累計：406日 8,734km



シチリア

(チュニス)～トラバニ～パレルモ

イタリア

ニカストロ～マテラ～ペスカラ～アンコナ～
ヴェニス～トリエステ

チュニスからシチリアへはアラブの船を利用、海は荒れて8時間もかかり、シチリア島西岸のトラバニ港に着いた。1984年4月1日、旅たちから一年、カンティーラという小さな町に滞在、13カ月、8,300km歩いた。5月31日、満30歳の誕生日を迎えた。その日、ヴェニスに至る道の公園でジュセッペという英語を勉強している少年に出会った。アメリカ人に出会ったことを喜び、少年の家へ行った。美術館のような大邸宅であった。公園と思った所はジュセッペの敷地であった。父親、母親に歓待され記念になる誕生日を過ごすことが出来た。



トラパニ

地中海に面した 68,000 人の港湾都市



パレルモ

シチリア島最大の都市,
シチリア自治州都



マテーラ

南部、石灰質の岩肌を掘って造ら
れた洞窟住居は世界遺産



ペスカラ

ペスカラ県の県都 人口 12 万人
港湾都市



アンコーナ

古代ギリシャ人によって築かれた
町、人口 10 万人



ヴェニス

アドリア海の女王、水の都
などの別名を持つ、人口 25 万人



トリエステ (ユーゴスラビア)

第 2 次世界大戦後、イタリアとユーゴとの間で帰属をめぐる紛争が
生じ、一時期、国連の管轄下のトリエステ自由地域が置かれた。

イタリアでは身も心もリラックスし、足のおもむくまま歩き廻った。 その 1 完

画像は無料画像によった。